



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121

小林市教育委員会では「0歳から100歳までの小林教育」をスローガンに「生涯を通して学び合い育ち合う」まちづくりをめざしています。そのキーワードが、上のマークに書かれた「自立」「感謝」「貢献」の3つの言葉です。

「自立」できたら、支えてくれた人たちに「感謝」して、自分ができることで社会に「貢献」。そして、このサイクルを繰り返すことで、みんなの笑顔あふれる小林市にしていきたいと思いますという思いが込められています。

同時に、自分にない知識や技能、経験をもった方々との交流を通して、「こんな人になりたい」とか「学びたい」と思えるようになってほしいとの願いもあります。地域学校協働活動でのさまざまな出会いから、子どもたちは自立のためのきっかけを掴んでいくでしょうし、大人にとっても得るものがたくさんあることでしょう。

幸ヶ丘小 1年生を迎える会



今年の1年生は1人(集合写真前列中央)。小学校に早く馴染んでもらえるよう、上級生が進行し、先生方も加わってゲームで交流を深めました。

メッセージの書かれたメダルのプレゼントや「じゃんけん列車」のゲームで楽しく過ごし、最後に全員が笑顔で記念写真を撮りました。

交通安全教室

運動場の状態が悪い時は屋内で実施しました。

7校の交通安全教室を参観しました。当然ですが、学校が変われば様子も変わります。それぞれの学校の特色を感じる機会にもなりました。



西小林小

上学年は、集団登校で使う横断旗を使って横断歩道を渡る練習もしました。

【お礼の言葉】 ◆ 車をちゃんと見てわたることが大切だとわかりました。 ◆ 教えてもらったことをずっと守ります。(2年生) ◆ ヘルメットが大事だということがよくわかりました。教えてもらったことを続けていきたいです。(4年生)



栗須小

自転車での横断歩道の渡り方や危険運転の実演(傘さし運転・二人乗りなど)、ブレーキと制動距離についても学びました。

【お礼の言葉】 ◆ これからも右左を確認して横断歩道を渡ります。(2年生) ◆ ブレーキのことが心に残りました。学校の周りは車が多いので、習ったことを守って気を付けたいです。(4年生)



野尻小

「車は急に止まれない」実験

上学年は、見通しの悪い交差点の通行を全員が体験。時速30Kmで走る車の制動距離の実験もありました。

【お礼の言葉】 ◆ 合言葉の「ブタハシャベル」を思い出して自転車点検をします。

「ブレーキ」「タイヤ」「ハンドル」「シャ」タイ(車体:高さ・ライト・反射材など)「ベル」



細野中

【主な内容】 DVD(自転車の加害事故)、自転車の交通ルールの確認、自転車点検の方法、見通しの悪い交差点の通行など。

DVDでは、ながら運転やスピードの出しすぎ、一時停止違反などの事例が紹介されました。



裏に続きます。

小林中と三松中は、細野中とほぼ同じ内容です。

小林中



【お礼の言葉】 自転車が被害者にも加害者にもなることがよくわかりました。青であってもしっかり確認して、小林中全体で交通安全に気をつけていきます。

三松中



【お礼の言葉】 危険運転やながら運転はしません。ヘルメットをかぶり、点検をして乗りたいと思います。

東方中



【主な内容】 ジャイロ効果(車輪を回転させて傾けると、元に戻そうとする力が働きます)、自転車の交通ルール、ヘルメットと事故の話、直進とカーブを曲がるコツ、安定する姿勢、急ブレーキのかけ方 など

指導してくださったのは…

- (栗須小) 梅田学園ドライビングスクール
- (東方中) 押領司先生：美術講師・県自転車競技連盟理事長
- (その他の学校) 小林警察署・交通安全協会

霧島岑神社子どもイベント



こどもの日を前に開催されました。主催は霧島岑神社と細野まちづくり協議会。

イベントの内容は、白玉団子作り体験・射的・輪投げ・スーパーボールすくい・駄菓子屋さん・あくまき作り体験・お菓子釣りなど。ゴールデンウィーク後半の初日とあって、境内はたくさんの家族連れでにぎわっていました。いろいろな屋台を回りながら子どもの頃を思い出していました。

第1回 小林市キャリア教育担当者会



市内の小中学校 21 校と市教育委員会、キャリア教育支援センター、こばやしスクールサポートボランティアセンターが出席したオンライン会議です。進行は瀬川先生（市教委）。

キャリア教育に関する市の方針説明と2つのセンターの役割と活用方法の説明の後、9つの中学校区に分かれて協議を行いました。

説明と協議より…

- ◆ なぜ、今、キャリア教育が必要なのでしょう？
- ① 人口減少・少子高齢化
国内の生産を中心となって支える生産年齢人口(15～65歳)の減少
- ② グローバル化
2067年には人口の約1割が外国人に。
- ③ 他業種間連携
自動車メーカーとIT や電気業界など。
- ④ 変化が激しい時代・人生 100 年時代
終身雇用からマルチステージの時代。人生のその時期にあった転職が進む時代へ。
- ◆ これからの時代を生きる子どもたちに求められる力は？
主体性(考える力、伝え合う力、つなげる力)
- ◆ そのためにも…
こすもす科や総合的な学習の時間の充実、キャリア教育の視点を生かした授業の充実(社会的・職業的自立のための基盤となる能力や態度を念頭に置きながら、子どもたちの成長や発達を促進しようとする見方)
- ◆ 具体的には…
課題意識をもたせる、対話的な学びの充実、外部講師の活用など

- ◆ 協議で聞かれた意見(キーワード)より
- 大人とのコミュニケーションに慣れる ○ 働くことのイメージや喜びが感じられる活動 ○ 継続できる無理のない活動 ○ 小中連携と情報の共有
- コロナで減少した体験活動の復活 ○ 地域の魅力や住民の思いを知る ○ 子どもたちが「自分で調べてみたい、考えてみたい」と思うような働きかけ

平成19年(2007年)に生まれた子どもが100歳まで生きる確率は50%というデータがあります。(カリフォルニア大学とドイツのマックス・プランク研究所)
当然、働く期間が長くなり、仕事についての考え方も変わっていくことでしょう。予測困難な未来に備えた取組が、今、求められています。

【お願い】 訪問できないこともありますので、活動の写真を、学校間共有→ KSSVC → 「2024投稿 Box」に入れていただくと助かります。